

会報

[財]日本太鼓連盟

NIPPON TAIKO FOUNDATION

発行・編集 2000年4月

〒105-0001

東京都港区虎ノ門1-15-16 財団法人日本太鼓連盟

副会長 塩見

和子

Tel.03-3580-9536

Fax.03-3580-8322

第2回自治大臣杯日本太鼓ジュニアコンクールを開催 ～天城連峰太鼓(静岡)が優勝～



(掛合太鼓の桐原君による宣誓)

(財)日本太鼓連盟主催、(社)石川県太鼓連盟主管による第2回自治大臣杯日本太鼓ジュニアコンクールが3月19日(日) 石川県松任市の松任総合運動公園文化体育館において開催されました。全国29道府県から選ばれた34団体420名が出場し、それぞれの腕を競いました。

開会式は、優勝旗を持った前年度優勝チーム共栄太鼓風雅を先頭に、全チームの入場行進でスタートしました。国歌斉唱に続き、(財)日本太鼓連盟の塩見副会長、(社)石川県太鼓連盟の飛田会長より挨拶がありました。続いて、来賓を代表し、谷本石川県知事、角松任市長よりご祝辞を頂きました。その後、審査委員8名がそれぞれ紹介されました。

前年度優勝チームの共栄太鼓風雅より塩見副会長へ優勝旗、優勝杯が返還され、塩見副会長からは優勝杯レプリカと太鼓一基が共栄太鼓風雅へ贈呈されました。共栄太鼓風雅は、第1回大会において優勝しており、第2回大会では、特別出演として演奏することになりました。

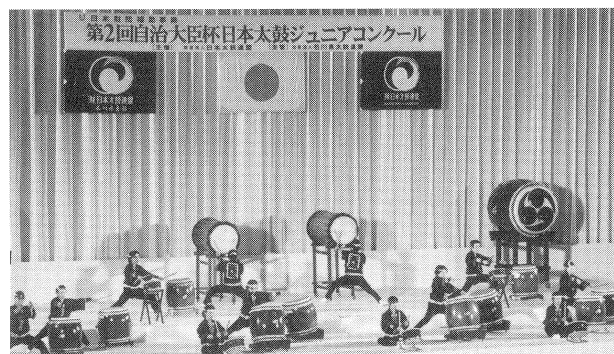
続いて、島根県代表掛合太鼓の桐原康宏君が出場者を代表して選手宣誓を行い、当財団小口副会長による「初っきり太鼓」でコンクールは盛大に開始されました。

午後からの雨にもかかわらず、2度目の全国大会を見ようと3000名以上の観客で席が埋まり、どのチームもそれぞれの個性を活かした素晴らしい演奏を披露しました。

出場34団体は、コンクール審査要領に基づき5分間に課題曲と自由曲を演奏しました。本コンクールは、技を競うだけではなく、礼節など人間形成を図る教育の場となることを目的としているため、審査委員8名が礼節・衣装、構え・打法、演奏技術、音楽表現、チームワークの5項目を厳正に審査しました。

閉会式では、コンクールの全体的な印象について大宅審査委員より講評があり、技術的な点に関して小口審査委員より、第1回大会よりも数段レベルが上がり、かなりの激戦だったと講評がありました。続いて、第1位から第5位までと特別賞10賞を発表し、優勝の栄光に輝いたのは、静岡県代表の天城連峰太鼓でした。

本コンクールにおいて、お忙しいなか、厳正な審査をしていただいた審査委員の先生方、開・閉会式でご協力いただいたボーイスカウト石川地区協議会や金沢高等学校吹奏楽部の方々、また、審査の間、素晴らしい演奏を披露していただいた特別出演チームの方々、全国より町ぐるみで応援に来て下さった父兄の皆さん、そして地元の多くのお客様に心より感謝を申し上げます。



(優勝した天城連峰太鼓)

第2回日本太鼓ジュニアコンクールを主管して

石川県太鼓連盟 木越 治

主管団体として第一番に心掛けたのは、全国各地から参加されたチームの皆さんが、持てる力を存分に発揮できる演奏環境をつくっていくことでした。そのために、リハーサルが当日朝まで続き、時間的に苦しい思いをした面もありますが、本番での出場チームによる元気に溢れた、高いレベルの演奏により、全ての苦労が報われた思いがしました。

なお、行き届かぬ点は多かったと思いますが、ご協力いただいた関係諸団体の皆さま、また、ボーイスカウト、吹奏楽部の皆さま、そして、お忙しいなか、審査に来て下さった審査委員の先生方には心より感謝したいと思います。本当に、ありがとうございました。

ジュニアコンクールに優勝して

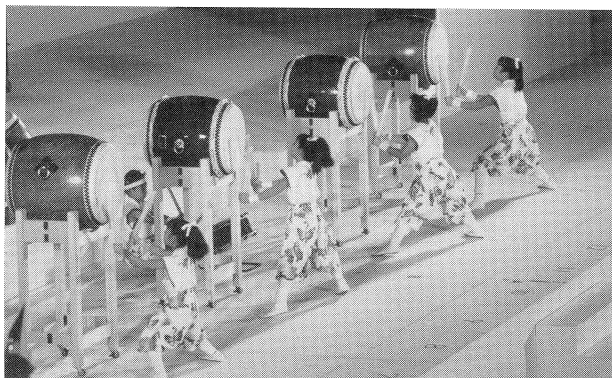
天城連峰太鼓 鈴木直樹

第2回日本太鼓ジュニアコンクールでは、優勝という大きな賞をもらい、とてもうれしく思っております。

僕たちメンバーは、高校1,2年生という平均年齢が高いチームで、ジュニアコンクールに出場できるのは、これが最初で最後の大会でした。

練習にもとても熱が入り、手から血が出るほど打ち込み、曲合わせなどを何度も繰り返し、時には涙を流すなどとても厳しい練習が続きました。でも、何よりも太鼓が好きな仲間と支えあって乗り越えた練習はとても楽しかったし、いい思い出になりました。また、太鼓の親方をはじめ、会員の皆さん、両親の協力があったからこそ、ここまで出来たと思っています。

今回の大会を通じて、これからも日々の練習に力を入れ、太鼓の楽しさや太鼓が好きだという気持ちを大好きな太鼓で表現できるようがんばりたいと思います。



(第1回優勝チームの共栄太鼓 風雅)

審査委員 (五十音別・敬称略)

大宅 映子 (評論家)
小口 大八 (財団副会長)
北村 汎 (秀明大学学長・元駐英大使)
塩見 和子 (審査委員長・財団副会長)
中西 智子 (三重大学教授)
西角井正大 (実践女子大学教授)
古屋 邦夫 (財団技術委員長)
吉田 貴壽 (昭和音楽大学名誉教授)

入賞チーム

優勝 天城連峰太鼓 (静岡)
第2位 高野右吉と秩父社中 (埼玉)
第3位 ゆふいん源流少年隊 (大分)
第4位 北海道くしろ蝦夷太鼓ジュニア (北海道)
第5位 日本航空高等学校太鼓隊 (山梨)
特別賞
(石川県教育長賞)・敢闘賞
川北町・手取亢龍若鮎組 (石川)
(松任市長賞)・敢闘賞
寺井町・九谷太鼓保存会 (石川)
(松任市教育長賞)・心に響いて良かった
和紙の里 和雅美太鼓 (福島)
(全日空賞)・可愛らしくて良かった
越中大島若太鼓 (富山)
(松任市商工会議所会頭賞)
・スマートで切れが良かった
川筋太鼓 響学館ジュニア (福岡)
(JA松任組合会長賞)・清潔感が良かった
るんびに太鼓 (大坂)
(松任市観光物産協会会長賞)
・地域の特徴が出ていて良かった
かやのみ太鼓 (群馬)
(松任市青年会議所理事長賞)・リズム感が良かった
燕市少年飛燕太鼓 (新潟)
(テレビ金沢賞)・礼儀が良かった
山口太鼓流 北海若衆太鼓 (北海道)
(浅野文化研究所理事長賞)・躍動感が良かった
信濃之国 松川響岳太鼓子供会 (長野)

特別出演

共栄太鼓 風雅 (石川県)
ゆふいん源流太鼓 (大分県)
彌栄太鼓保存会 (石川県)
加賀虫送り太鼓 (石川県)
(金沢百満石太鼓・辰巳こんころ太鼓・手取亢龍太鼓)

特別協力

ボーイスカウト石川地区協議会
金沢高等学校吹奏楽部

日本太鼓と学校教育—1

文部省の「学習指導要領」の改訂により、2002年から中学校の音楽時間において和楽器を3学年通じて1種類以上学習することが義務づけられます。このため、日本太鼓と学校教育の関わりについて実情を把握し、今後、学校での日本太鼓の普及に役立てるため、各地の学校で日本太鼓の指導を行っている方々の声を反映した「日本太鼓と学級教育」を今月号からシリーズとして掲載することになりました。

今回は、県内の小・中・高校で年に3～5回公演を行い、不登校児を対象にした教室も開いている宮崎県の橘太鼓「響座」のリーダー岩切邦光さんから寄稿していただきました。

「汗をかき、本音で話す」

橘太鼓「響座」 岩切 邦光

県内各地の幼稚園や小・中・高校に呼ばれて公演する機会が増えてきました。初めの頃は「なぜ」という気持ちがありましたが、最近は少し分かってきたような気がします。

学校では、子供たちの後ろから、太鼓を打ち鳴らして入場します。突然の登場に友達同士顔を見合わせて笑ったり、手で耳をふさいだりなど、初めて聴く太鼓の音に戸惑う子供もいます。そんな反応を無視するかのように、演奏は延々30分続きます。

前半の演奏が終わるとあいさつをします。力一杯太鼓を打ち鳴らした私たちは、全身汗でぐっしょり。バケツで水をかぶったような私たちを前に、子供たちの表情が変わり、ふざけていた子の目が輝きます。感動の一瞬です。

演奏の後には子供たちの出番です。舞台上で思いっきりバチを振り上げる子、楽しそうにリズムをとる子。会場の雰囲気や和んだところで、私自身が若き日の苦い思い出一本気で生きること、夢を持つ大切さを語ると、子供達の表情は真剣になります。

締めくくりは再び「響座」による太鼓の演奏です。すっかり打ち解けた子供達は握手を求めたり、「響座」のメンバーを志願したりする子供もいます。後片付けも率先して手伝ってくれ、わずか数時間で子供の変化が見られるのは何より嬉しいことです。

近頃は、汗をかき、本音で話すという機会が減っているのではないのでしょうか。その責任は学校にも、親にもあると思います。

汗をかき、本気で子供と接するということは難しいことであり、恐いことでもあります。案外気持ちがいいものです。

先日、国際交流基金主催でトルコ公演を行った際、外国の地で生きる日本の子供達の様子を知りたく

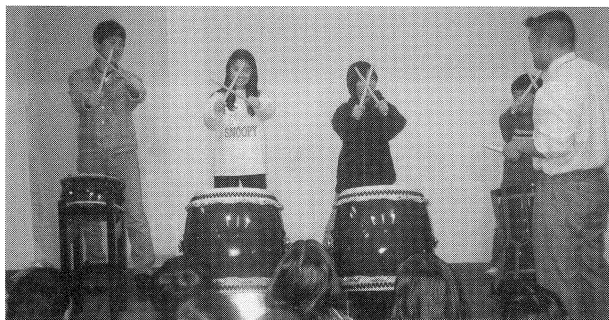
て、イスタンブール日本人学校を訪れました。

その学校の生徒は65人、教師14人。教室も運動場も狭く、そんな恵まれない教育環境に反して、子供達の心はとても大きく感じました。

さらに驚いたことに、授業に和太鼓を取り入れ、全校生徒の約半分の生徒が太鼓を叩いており、生徒達の演奏を聴いてみると、とても上手なのです。この和太鼓を授業に取り入れた目的は、太鼓を通して、日本の伝統文化の素晴らしさ、故郷の大切さを学ぶとともに、感受性豊かな心を養うことだそうです。

異国の地で日本人の誇りを持ち、力強く生きる子供達の姿に感動しました。そして、「一生懸命に生きる」意味と日本の子供や大人達の多くが忘れかけている大切なことを考えさせられました。

また、日本人学校における太鼓教室での子供達の熱心さに感動し、少しでもお役に立とうとチャリティーコンサートを開催しました。その基金で得た太鼓4基をアンカラ日本人学校に寄贈しました。本学校には、太鼓を指導できる先生が音楽担当として4月に赴任し、これから益々太鼓の輪が広がることと思います。そして、私達も機会があればもう一度訪れたい気持ちで一杯です。



(日本人学校で太鼓を指導する岩切氏)

学校教育と日本太鼓の関わりを深めていくためには、各市区町村の教育委員会や学校音楽担当の先生と日頃から緊密な連携をとり、太鼓の効用を理解してもらう草の根運動が効果的であると考えられます。

※シリーズに対する皆様からの寄稿をお待ちしております。

〈第9回運営委員会を開催〉

第9回運営委員会が、3月9日(木)東京・日本財団ビルにおいて開催されました。塩見運営委員長が議長となり各議題を審議しました。

報告事項

「1999年(平成11年)度事業について」

- ①助成金交付事業第2次審査(第8回運営委員会)結果報告
- ②第3回日本太鼓全国フェスティバル実施報告
- ③第6回・第7回日本太鼓全国講習会実施報告
- ④第2回日本太鼓ジュニアコンクール状況報告

以上の件について資料を基に説明を行い、特に異議がなく了承された。

審議事項

「2000年(平成12年)度事業について」

①日本太鼓助成金交付の審査について

日本太鼓助成金交付対象が12事業に対し、14事業の申請があった。審議の結果、1支部に2事業の助成金交付は難しいとして、宮崎県の2事業については、申請のあった宮崎県より「みやざきジュニア太鼓フェスティバル」を優先したいとの要望があり、「清武町太鼓フェスティバル」を助成金交付の対象外とした。

また、助成金交付の対象について以下のとおりガイドラインを定め、決定の参考とすることとした。支部講習会については1回、ジュニアコンクール予選及び継続事業については2回とする。このため、埼玉県より申請のあった「第10回 桴の祭典」は3回目となるため、他の新規事業を優先することとして助成金交付の対象外とした。

なお、申請団体の事務簡素化を考慮し、助成金交付対象となった場合、その事業を自動的に財団の後援とすることとした。

②日本太鼓全国フェスティバルの内容について

各地のフェスティバルとの差を明確にするため、日本太鼓全国フェスティバルは、伝統太鼓の部や日本の一流伝統芸能の分野までを取り入れてはどうかという意見があった。

また、2002年の第6回日本太鼓全国フェスティバルは財団設立5周年としてこれらの内容を含めて総合的に検討するため準備委員会を設ける必要があるとの意見があった。

「第5回技術委員会からの検討事項について」

①公認指導員の推薦について

公認指導員の推薦にあたっては、以後、指導方法の統一を図るため推薦であっても講習会に出席して

もらうこととした。また、公認指導員の特別推薦基準を技術委員会で見直すこととした。

小口副会長に作曲をお願いしていた「鎮魂の太鼓」が完成し、今後開催される公認指導員研修会において指導曲として使用することとした。

②支部講習会について

昨年、長野県で開催された支部講習会の成功を受け、2000年度では、すでに長野、千葉、神奈川から開催の希望がある。また、今後、支部講習会での検定料の半額相当分を試験のための事務費(会場費・人件費等)として支部に還元することとした。

「支部開設について」

東京都・愛知県・奈良県の支部開設について、当財団より呼びかけを行っていたが、東京都については2度の打合せ会の結果、財団法人日本太鼓連盟東京都支部(東京都太鼓連合)として新たに開設される運びとなった。また、愛知県については3月5日に説明会を行い支部開設の方向で総会に諮ることになった。奈良県については3月12日に説明会が行われることとなっている。

一方、支部があるにもかかわらず、他県の支部または特別会員として入会したい団体については、原則として居住地の支部に加盟してもらうこととする。「その他」

2000年11月に開催予定の第9回日本太鼓全国講習会について鈴木委員より説明があり、東北太鼓連絡協議会で検討した結果、秋田県において開催することとなった。

また、秋田県が県単位で独自に行っている講習会の認定級を全国講習会の認定級に置き換えられないのかという意見があり、検討することとした。

なお、現在のところ、各流派の認定級は全国講習会の認定級にスライドする考えはないことを確認した。

〈第5回技術委員会を開催〉

第5回技術委員会が、1月19日(水)東京・日本財団ビルにおいて開催されました。古屋技術委員長が議長となり各議題を審議しました。

1. 日本太鼓ジュニアコンクールについて

- (1)名称・主管・後援等開催実施要項案に記載の事項は、原案通り了承された。
- (2)演奏運営要項については、特別出演の団体を含め原案通り了承された。
- (3)審査委員について原案を基に審議し、特に異議がなく了承された。なお、審査委員長は委員の互選により選出することを確認した。

- (4)出場団体について支部代表団体を確認し、続いて技術委員会で決定すべき支部未開設地区の団体について審議した。新潟県、大阪府、兵庫県、香川県の4県は、特に問題なく了承された。北海道支部推薦の2チームについては、開催要領で「参加団体は、支部及び支部のないところは原則として特別会員から、それぞれ1団体とする。」となっているが、予ねてより懸案となっている支部増加を考慮し、山口太鼓流 北海若衆太鼓が札幌地区の出場団体として了承された。なお、次回開催時までに支部が開設されない場合は、今回は1団体にすることを確認した。また、会員以外のチームが出場した場合は、入会を呼びかけることとなった。
- (5)出場団体の交通費補助は、最終出演者名簿等の書類確認のうえ大会1週間前までに振込むこととした。
- (6)出演順番について、主管の石川県より本委員会において決定するよう要請があった。技術委員会で厳正な抽選を行い出演順番を決定した。
- (7)大会進行について説明があり、選手宣誓は1番目に出演する島根県代表・掛合太鼓ジュニアに決定、初切り太鼓は小口副会長にお願いすることとなった。また、浅野理事より入場の方法、出演者の見学方法について説明があった。
- (8)大会課題曲を確認し、作曲された小口副会長より課題曲「躍動」についての説明があった。

「第3回大会開催要項(案)について」

事務局より原案の説明に続き、主管する長野県を代表して小口副会長より受入れ側としての歓迎の挨拶があった。

2. 日本太鼓資格認定制度について

「公認指導員の推薦について」

- (1)公認指導員の推薦にあたっては、以後、指導方法の統一を図るため推薦であっても、全国講習会に出席し、指導者の適正を確認し、運営委員会に諮ることとなった。また、1級推薦者は、全国講習会の講師経験がないことから2級に該当する旨を確認した。なお、今後も新たな開設支部からの推薦者については、今回と同様に扱うこととなった。
- (2)秋田県並びに大分県から推薦の2名は、この制度の発足時において技術は基準に達していたが、年齢が基準に達していなかったために見送りとなり、この度、改めて推薦があったもので、問題なく了承された。
- (3)推薦者については、従来、支部長としていたが、公認指導員にする等の変更をこれから検討することとなった。

「平成12年度公認指導員研修会について」

- (1)2000年度の全国講習会において開催する公認指導員研修会の日程案が了承され、講師等具体案を事務局で作成することとなった。
- (2)研修会の参加を、講習内検定の参加回数に含むこととなった。
- (3)基本講座の講師は、研修会参加とみなすこととなった。
- (4)1999年1月以前に認定を受けた公認指導員は、年間3回の内に必ず参加しなければならないが、止む終えない事情により参加できない場合は、理由書の内容により判断することとした。
- (5)今回の研修会に参加した場合の次回更新は、更新日より3年以内で、2003年度までとなることを確認した。

「日本太鼓教本の見直しについて」

- ①前回の委員会において教本の見直しを行うこととなり、会報等を通じて広く意見を求めたが特に回答がなかった旨の報告があり、次回の技術委員会までに各委員が再度教本を見直すこととなった。
- ②教本の見直しとあわせて基本講座用のビデオ作成を検討することとなった。

3. 日本太鼓全国講習会について

事務局より資料に沿って説明を行った。内容及び検討の結果は次のとおり。

「平成11年度実施状況報告について」

事務局より資料を基に群馬県、大分県、静岡県での全国講習会の報告を行い、特に質問がなく了承された。

「平成12年度実施計画について」

事務局より資料を基に2000年度開催予定の熊本県、秋田県、栃木県の説明を行い、特に質問がなく了承された。

「支部講習会の実施について」

長野県で開催された第1回日本太鼓支部講習会の報告を行い、長野の成功例を参考に積極的に実施することとなった。なお、小口副会長より長野では2000年度においても実施したい旨の要請があった。

4. その他について

塩見副会長より「鎮魂の太鼓」と「祝いの太鼓」の基本曲を作成する必要がある旨の発言があり、小口副会長に作曲を依頼した。

新たに4名の公認指導員が誕生

2級公認指導員 祓川千寿氏 (福島県)

3級公認指導員 高田佳子氏 (秋田県)

富永希一氏 (大分県)

廣田紀昭氏 (栃木県)

◆ 第7回日本太鼓全国講習会を静岡・本川根町で開催 ◆

～全国から254名が受講～



(5級基本講座の講習風景)

第7回日本太鼓全国講習会が2月26日(土)・27日(日)の両日、静岡県の本川根文化会館を中心に行われました。

今回は、静岡県支部の主管により行われたもので、山内会長をはじめとする会員の皆さんの熱意と努力に、心から感謝を申し上げます。

講習会には、地元静岡県をはじめ、全国各地から254名の受講者が参加しました。

開講式には、財団を代表して塩見副会長と主管団体の静岡県太鼓連盟の山内強嗣会長が挨拶、続いて、本川根町の鈴木敏夫町長から歓迎の挨拶がありました。講師紹介の後、講師による模範演奏が行なわれ、午後からは、厳しい寒さの中、各講座の講師による指導が開始されました。

翌2日目は、朝の集いから始まり、講座も順調に進み、成果発表では3専門講座で技術を習得した受講生による演奏がそれぞれ行われ、2日間の講習による上達ぶりを披露しました。

閉校式では、小口副会長が挨拶をし、講習会は無事終了しました。

○ 専門講座

大江戸助六太鼓講座 (講師：小林正道氏)

秩父屋台囃子講座 (講師：高野右吉氏)

八丈太鼓講座 (講師：菊池 修氏)

○ 基本講座

3級基本講座 (講師：松枝明美氏)

4級基本講座 (講師：鈴木孝喜氏)

5級基本講座 (講師：古屋邦夫氏)

なお、午後からは受験希望者による技術検定試験が行われました。検定の結果は、次のとおり。

1級検定	8名受験	8名合格
2級検定	8名受験	6名合格(3名認定)
3級検定	20名受験	16名合格
4級基本	38名受験	33名合格
5級基本	106名受験	98名合格

この結果、現在の技術認定員数は次のとおりです。
1級2名、2級16名、3級47名、4級137名、5級817名となり、技術認定員総数1019名となりました。

第7回日本太鼓全国講習会を主管して

静岡県太鼓連盟 会長 山内強嗣

第7回日本太鼓全国講習会を静岡県支部の主管により、静岡県の秘境・本川根町で開催させて頂きました。私も静岡県人でありながら、今回の講習会の下見を兼ねた静岡県連盟の総会で初めて当地を訪問し、静岡市内からのスリルあふれる1時間半の山道ドライブに、この地を開催地に決定することに不安を感じました。

しかし、地元赤石太鼓保存会の情熱に負け、理事を説得して開催にこぎつけたのです。私たちの心配とは裏腹に、受講申込者は日に日に増え、目標の200名は軽く突破。締切日にはスタッフを含め参加者総数290名にまで膨れ上がったのでした。

この交通不便な山間の地に、これ程までの人が集まったのは、まず、日本太鼓連盟の検定制度が定着してきたことが一つ。そして一人でも多くの人を集めるために、全国トップレベルの講師陣の無理を承知で依頼したことにあったと思います。講習会前夜の会議にそろった先生方の顔ぶれを見て、改めて静岡県連は身の程わかまえず、何と大それた事をしてしまったのだらうという自分自身への驚きと、先生方への感謝の気持ちで胸が一杯になりました。

恐れていた雪も、待ってましたとばかりに降り出して、講師、受講者の皆様には主催者側の行いの悪さと、対応のまずさで大変ご迷惑をかけたこと深く反省する次第であります。

しかし、無情に降る雪と冷え冷えとした会場にも負けない地元・本川根町の婦人会を中心とするボランティアの方々の、静岡のお茶のサービス、講習会終了後の猪鍋サービスは、体と心の芯まで暖めてくれたことと思います。

多くの方々に支えられ、第7回日本太鼓全国講習会が無事終了いたしましたことに、深く感謝とお礼を申し上げ、報告にかえさせていただきます。

講習会に参加して

赤石太鼓保存会 中原千明(中学校2年生)

私は閉会式のとき、小口大八先生のお話を一番前に聞きました。「太鼓は丸い、人を丸くする。太鼓は響く、人の心に響く。」この言葉が今でも印象に残っていて、今、私達若者に必要な体験の場がここにあるのだと思いました。

太鼓を聞いたり太鼓の練習をすると、太鼓っていいものだあってしみじみ感じます。それを教えてくれた講師の先生方に感謝します。

主催事業詳細決定

2000年度の主催事業の詳細が決定いたしましたので、お知らせいたします。

第4回日本太鼓チャリティーコンサート

今回は、日本YMCA国際賛助会が、心身に障害のある子供達のために毎年行っているサマーキャンプを支援するために行うこととなりました。当日は、我が国のオピニオンリーダー及び在日外国高官の方々をお招きして、日本太鼓を日本の代表的伝統音楽の一つとして位置づけ、かつ国際的に広く紹介する機会になるものと思われます。また、昨年度から日本太鼓ジュニアコンクールの優勝チームが出演することになりました。

なお、YMCA国際賛助会と富岳会の活動をパネルにし、会場において展示いたします。

期 日 2000年5月12日(金)

会 場 草月ホール(東京都港区赤坂7-2-21)

主 催 財団法人日本太鼓連盟

共 催 日本YMCA国際賛助会

出演団体 太鼓集団天邪鬼(東京都)・富岳太鼓障害者チーム(静岡)・上州桂太鼓(群馬県)・天城連峰太鼓(静岡県)・第2回日本太鼓ジュニアコンクール優勝チーム・小倉祇園太鼓(福岡県)・手取亢龍太鼓保存会(石川県)

第2回日本太鼓全国障害者大会

昨年に続き日本太鼓を愛好する知的・身体障害者チームが一堂に会し、演奏会を実施し、併せてフォーラムを行い日本太鼓とその療育等について検討します。

期 日 2000年6月17日(土)

会 場 御殿場市民会館(静岡県)

主 催 財団法人日本太鼓連盟

主 管 静岡県支部・社会福祉法人富岳会

後 援 厚生省、文化庁、静岡県、静岡県教育委員会、御殿場市、御殿場市教育委員会

出演団体は、15団体程度(1団体演奏7分を予定)の出演を予定しています。

※すでにご案内済みですが、各支部で推薦する太鼓チーム並びに出演希望団体は、4月末日までに書類を提出して下さい。旅費は、一部補助いたします。

問合せ先 (財) 日本太鼓連盟

TEL. 03-3580-9536

第8回日本太鼓全国講習会

期 日 2000年5月27日(土)・28日(日)

会 場 山鹿市総合体育館(熊本県)

主 催 財団法人日本太鼓連盟

主 管 全九州太鼓連合・熊本県支部

後 援 文化庁、山鹿市、山鹿市教育委員会、山鹿市観光協会ほか

〈専門講座〉

大江戸助六太鼓講座(単式複打) 小林 正道(東京都)

大太鼓講座(単式単打) 池田美由紀(石川県)

笛講座 高野 功(兵庫県)

〈基本講座〉

3級基本講座 渡辺 洋一(1級公認指導員)

4級基本講座 松枝 明美(1級公認指導員)

5級基本講座 古屋 邦夫(1級公認指導員)

※2000年度の日本太鼓全国講習会では、公認指導員の更新研修会を併せて実施いたしますので必ずご参加願います。

問合せ先 全九州太鼓連合講習会事務局

TEL. 0968-44-5269

第4回日本太鼓全国フェスティバル

今年度は、CIOFF(国際民俗芸能祭)の世界大会が東京を中心に開催されることとなり、その一環として実施します。

期 日 2000年7月30日(日)

会 場 渋谷公会堂(東京都)

主 催 財団法人日本太鼓連盟

共 催 CIOFF JAPANワールド“フォークロリアード”日本組織委員会

後 援 文化庁、東京都、渋谷区ほか

出演団体は、40団体程度(1団体演奏7分を予定)の出演を予定しています。

※すでにご案内済みですが、各支部代表並びに出演希望団体は、4月末日までに書類を提出して下さい。出演団体は、当財団委員会に諮り、決めさせていただきます。旅費は、一部補助いたします。

問合せ先 (財) 日本太鼓連盟

TEL. 03-3580-9536

2000年度日本太鼓助成金交付事業決定のお知らせ

日本太鼓助成金交付事業は、運営委員会において審議の結果下記の12事業が承認され、決定いたしました。

- | | |
|--|---|
| <p>(1)みやざきジュニア太鼓フェスティバル(宮崎県支部)
4月29日(土)宮崎市こどものくに(宮崎県)</p> <p>(2)栃木県太鼓連盟発足記念大会(栃木県支部)
5月21日(日)栃木県教育会館(栃木県)</p> <p>(3)第10回長野県太鼓の祭典(長野県支部)
7月23日(日)国宝松本城特設会場(長野県)</p> <p>(4)環日本海太鼓フェスティバル
(環日本海太鼓フェスティバル実行委員会)
8月5日(日)大浜海岸特設会場(山形県)</p> <p>(5)第9回東北太鼓フェスティバル(東北太鼓連絡協議会)
9月10日(日)中央公園スポーツセンター(青森県)</p> <p>(6)第3回ジュニアコンクール長崎県予選
・第1回長崎支部コンサート(長崎県支部)
9月23日(土)シーハットおおむら(長崎県)</p> | <p>(7)第3回ジュニアコンクール熊本県予選会(熊本県支部)
10月15日(日)熊本城「笹園」特設舞台(熊本県)</p> <p>(8)第3回ジュニアコンクール鹿児島県予選会
(鹿児島県支部)
10月29日(日)みやまコンセル(鹿児島県)</p> <p>(9)国民文化祭プレ事業・群馬県和太鼓フェスティバル
(国民文化祭藤岡市実行委員会)
10月29日(日)みかほみらい館大ホール(群馬県)</p> <p>(10)第10回島根県太鼓フェスティバル(島根県支部)
10月29日(日)三刀屋町文化体育館(島根県)</p> <p>(11)第1回神奈川県太鼓講習会(神奈川県支部)
12月9(土)・10(日)日平塚市市民センター(神奈川県)</p> <p>(12)第4回大分県太鼓コンサート
・第3回ジュニアコンクール大分県大会(大分県支部)
11月3日(祝)大分文化会館(大分県)</p> |
|--|---|

事務局だより

財団職員石塚博子さん退職

当財団設立以前の(財)日本国民音楽振興財団の頃より務めておりました、職員の石塚博子さんが5月末日をもって、退職することとなりましたのでお知らせいたします。

なお、次号の会報で石塚さんに苦労話など色々な思い出を寄稿していただきます。

ホームページ開設

4月より(財)日本太鼓連盟のホームページを開設いたしました。未だ作成中のページがありますが、下記の内容が利用できます。

- ・太鼓イベント情報(期間や場所で検索ができます。)
- ・会員名簿(随時更新いたします。)

*ホームページにイベント情報を掲載したい方はお知らせ下さい。<http://www.nippon-taiko.or.jp>

年度会費納入について

2000年度の会費納入は、「会員組織規程」第21条により毎年度5月末日が期限となっております。支部の会員は支部を通じて、特別会員並びに賛助会員は直接財団事務局に納入するようにお願いします。

口座番号 00100-6-419013
口座名 財団法人日本太鼓連盟

各地の便り

2000年の夜明けを和太鼓で

日本一早く初日の出が見られる銚子の犬吠埼灯台隣の君ヶ浜しおさい公園で、約2000人が懐中電灯を照らすなか、2000年1月1日午前0時へ向け、「カウントダウン」のイベントが行なわれました。

午前0時、4000発の花火が打ち上がり、新年を告げる220基の和太鼓の乱れ打ちが始まりました。

さらに、午前6時46分、再度220基の和太鼓が一斉に乱れ打ちして2000年の夜明けを祝福しました。



各地の事業

5月28日(日) 第10回日本太鼓フェスティバル
会場：秩父アミューズパーク野外ステージ
主催：日本太鼓フェスティバル実行委員会
8月6日(日) 大響祭
会場：あきた北空港ふれあい緑地野外ステージ
主催：大響祭実行委員会

*各地の実施事業を掲載したいと考えておりますので、皆さんからの寄稿をお待ちしております。